

平成 21 年 6 月 29 日現在

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2007～2008

課題番号：19791677

研究課題名（和文）看護ケアに影響を及ぼす要因に関する実証的研究

研究課題名（英文）Analysis of the Factor which Affects Nursing

研究代表者

高橋 悦子（TAKAHASHI ETSUKO）

四日市看護医療大学・看護学部・助教

研究者番号：00435554

研究成果の概要：質の高い看護ケアに影響を与える要因を明らかにすることを目的に調査を実施した結果、電子カルテなど医療の IT 化が看護ケアに与える影響は大きく、本調査でも、IT 導入による医療の安全性向上、情報共有の迅速化など看護ケアの質向上に寄与している点が指摘された。一方、看護師の専門的判断力を支える、アセスメント能力、クリティカルシンキングの育成と IT システムとの連携が今後の看護ケア質向上の課題となることが明らかになった。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,300,000	0	1,300,000
2008年度	1,900,000	570,000	2,470,000
年度			
年度			
年度			
総計	3,200,000	570,000	3,770,000

研究分野：基礎看護学

科研費の分科・細目：

キーワード：看護学、ケアの質、タイムスタディ

1. 研究開始当初の背景

高齢化社会の急激な進行や高度医療技術の発展、入院期間短縮などの医療制度改革により、医療の現場における看護師に求められる役割は大きく変化してきている。年々、看護業務はその過密性・過酷さを増し、看護師は心身の健康を常に脅かされる環境にさら

されている。このような看護師の労働条件の厳しさが一因とされる早期離職も後を絶たない。そのような中で、看護師の労働条件を整備し、看護業務全般の水準を保っていくことは、看護師の早期離職を防止するだけでなく、看護の専門性を維持・発展していく上でも重要である。

研究者は、これまでに看護師の業務の実態を把握する目的で看護業務観察調査を実施した。そこでは、実際に行っている行為、動作（例：清潔ケアの提供、点滴業務、記録の実施など）に関して、どのような行為、動作を何時間行っているかという、看護業務の量的な実態を明らかにすることができた。しかし、研究者自身の看護実務経験を振り返ってみると、同じ看護ケアを行っていても、看護師により、看護ケアがもたらす成果が異なる、看護サービスの質に明らかな違いが生じる、ということがあった。これらの違いが生じる要因として、ケア提供者の特性（看護経験年数、健康度、職務満足など）が影響しているということは経験知として認識されている。しかし、実際の看護現場では、単に経験年数のみで看護ケアの熟練度、習熟度を規定してしまいがちである。このことが、看護現場でのキャリア不一致による離職や適正配置の困難さなどに象徴される諸問題を引き起こしている。看護師の健康度や労働意欲と看護ケアの質との関係を学術的に検討することは上述した看護師を巡る問題の解決に貢献すると考え、本研究の着想に至った。

2．研究の目的

(1) 研究の全体構想

本研究では、質の高い看護ケアの構造化とそれに関連する要因を規定することを全体構想としている。今回は、看護ケアの全体像の把握を行い、実際の看護ケアの提供に影響を与える因子に関する検討を実施する。

(2) 本研究の具体的目的

本研究では、看護ケアの内容や実際の看護ケアの提供に影響を与える要因を明らかにすることを目的としている。具体的には、ヒアリング及び業務観測調査から看護ケアの具体的な全体像について解明し、看護師の健

康度（身体的、心理的の両側面）、労働意欲、職場環境が看護ケアにいかに関与しているのかを実証的に検討する。

3．研究の方法

平成 19 年度は、看護ケアの全体像を具体的に把握すること、ケア提供者が考える質の高い看護ケアとは何かを把握するために下記の調査を実施した。

(1) 看護ケアの構造化

これまでに取り組んできた看護業務観察調査データや文献を活用し、看護ケアを構造化するための一覧表を作成する。

(2) 中堅看護師へのヒアリング調査

インタビューガイドに沿った 1 時間 30 分程度の半構成的面接を行う。ケア提供者である看護師の考える質の高い看護とは何か、看護ケアを実践する際にどのような点に配慮し、どのような工夫を行っているのかという点を中心にインタビューを実施する。

平成 20 年度は、前年度実施した看護業務・看護ケアの構造化の結果をもとに、看護業務観測調査を実施し、看護ケアの実態を観測した。なお、対象病院は都内にある 300 床の循環器専門病院である。

(3) 看護業務観察とヒアリング調査

業務観察：予備調査およびヒアリング調査で明らかになった結果を踏まえ、看護ケアの実態について業務観察を行う。ナースステーション、病室内における看護師の業務内容の映像記録、観察者による行動観察記録（スナップリーディング法）

ヒアリング調査：業務観測を行った看護師を対象に、「質の高い看護ケア」に関連があると判断された行為について、その行為を実施した意味や根拠、理由について、さらに詳細に情報を収集する。

解析項目：看護労働における看護ケアの実

態を具体的に記述し、看護ケアの特徴を解析する。また、実際に提供されている看護ケアの中から「質の高い看護ケア」に関連がある項目を抽出し、これらを分析することで、質の高い看護ケアの実施状況を実証的に解析する。

4. 研究成果

(1) 看護ケアの構造化

ヒアリング調査、既存の資料、文献に基づき、看護ケアを分類した結果、下記の通り、8つの大分類に構造化された。

療養の援助・診療補助業務の実施

食事、排泄、保清、安楽、環境整備、自立の援助、体位交換、バイタルサイン測定、循環・呼吸管理、診療・治療の介助、諸検査の介助及び献体採取、与薬など

患者に対する記録の記入

看護計画・記録、カルテへの記録、各種伝票への記載

会話によるコミュニケーション

看護師、医師を含めた医療スタッフや患者および患者家族との会話

情報収集（申し送り含む）

申し送り、カンファレンス、カルテからの情報収集、患者からの情報収集など

準備・片付け

療養援助や診療補助業務に関する準備や片付け、ケア実施後の片づけ、急患受け入れ準備

事務作業や管理業務の実施

病棟管理に関する記録物の記載、事務作業、職員の勤務及び調整、看護学生・職員の指導、教育・研修参加、会議、その他

(2) 中堅看護師へのヒアリング調査

中堅看護師 10 名にヒアリング調査を実施した結果、下記の点が質の高い看護ケアとして挙げられた。

リーダーとしての情報収集能力や判断力
情報伝達スキル、情報選択能力

アセスメント能力

予測力とそれに基づく業務スケジューリング能力

医療事故防止、リスクなどに関する感性や安全な手技

(3) 看護業務観察とヒアリング調査

看護業務観察調査とそれに基づくヒアリング調査の結果、以下の点が明らかになった。

一日の看護ケアのスケジューリングや電子カルテ等の各種記録ツールの使用には一定のパターンがあり、看護師特性により効率的な活用パターンが異なる。看護師は当日の担当業務に関わらず、ナースステーションを拠点に業務を遂行している。特にナースステーションに常在することの多いリーダー担当者は、その日の病棟看護業務に関する情報コントロールセンターの役割を果たす。

リーダーは、高い情報収集能力と瞬時の判断力が必要であり、これらの能力を発揮することで、患者の安全が守られていることが示唆された。

トラブル発生時は、看護師間の連携や迅速な情報共有によりスムーズに対応されており、特に、看護師のアセスメント能力、判断力の高さによりトラブル発生時もダメージを最小限に抑えるような対応を可能にしている。

(4) 全体のまとめ

今日、病院において急速に普及している電子カルテを始めとした医療の IT 化が看護ケアに与える影響は大きく、本調査でも、IT システム導入により、患者のケア参加促進、医療の安全性向上、情報共有の迅速化など看護業務やケアの質向上へ寄与している点が指

摘された。一方、看護師の専門的判断力を支える、アセスメント能力、クリティカルシンキングの育成に IT システムをいかに連動させるか、または、それらの能力を IT システムにいかにか反映させるかが、今後の看護ケアの質の向上のキーとなることも調査により明らかになった。よって、IT システムの利点を活用した看護業務の再設計、IT システムの有効活用を含めた継続教育システムの整備、職場風土とチームナーシングのさらなる発展についてさらに検討していくことが必要である。

5 . 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計 1 件)

高橋悦子、病院における転倒転落の発生要因と対策についての検討、第 27 回日本看護科学学会、2007 年 12 月 8 日、東京

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

高橋 悦子 (TAKAHASHI ETSUKO)
四日市看護医療大学・看護学部・助教
研究者番号 : 00435554

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし